

科目名	人体の構造及び機能		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	座学・グループワーク・発表形式を取り入れた授業 チェックテストを実施し、学習した知識・技術の習得状況を確認する 学習の仕方を学び活用する 適宜視覚教材を利用							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> 解剖生理学の基礎を学び習得する 健康や美しさを維持するための基本知識を習得する 							
受講条件	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	YIC京都オリジナル教材							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	解剖生理学に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で解剖生理学について主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	導入 美しさと健康	座学の学習の進め方を学ぶ 解剖生理学について学ぶ 解剖生理学を学ぶことでどんな事が解決できるかを知る						
第2回	細胞 組織・器官・系統	細胞とは何かを学ぶ 組織・器官・系統とは何かを学ぶ						
第3回	骨格系統 1 骨格系統 2	骨の名称 働き 骨粗しょう症について学ぶ 骨と関節の構造と役割について学ぶ						
第4回	筋肉 1 筋肉 2	筋肉の構造と働きを学ぶ マッサージへの影響を学ぶ 筋肉の名称と場所を学ぶ(起始・停止)						
第5回	消化器 1 消化器 2	消化器の構造を学ぶ ・消化作用 消化器について学ぶ ・胃・小腸・大腸・肝臓・すい臓						
第6回	栄養学	3大栄養素、ビタミン、ミネラル 基礎代謝 カロリー グループワーク						
第7回	栄養素	各栄養素についてグループ発表						
第8回	呼吸器	呼吸器系について学ぶ ・腹式呼吸と胸式呼吸						
第9回	循環器 1	リンパについて学ぶ ・リンパとは何か ・リンパの流れ						
第10回	循環器 2	循環器について学ぶ ・血液の成分、働き、循環経路 ・静脈・動脈・毛細血管 ・血圧脈拍						
第11回	排泄器	排泄器について学ぶ 腎臓、尿管、尿の生成について学ぶ 腎臓の病気を知る						
第12回	神経系	神経系の基本知識を学ぶ ・大脳と神経の伝導 ・自律神経について学ぶ						
第13回	内分泌	ホルモンについて学ぶ ・作用・分泌のコントロール・内分泌腺の種類						
第14回	期末テスト対策	今までの内容を振り返り、見直し						
第15回	期末テスト	期末試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 期末試験80%、中間試験20%								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点~70点
授業態度			○				10	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	荒木 真衣		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/araki/				

科目名	皮膚科学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	皮膚およびその附属器官の構造、皮膚の循環系と血管の解剖と生理、皮膚と附属器官の一般的生理機能、皮膚と附属器官の保健ならびに疾病の概要等について学習する。							
授業の一般目標	皮膚は身体の表面を覆い、絶えず外部環境からの刺激にさらされている。そのため、内部諸臓器の保護のみでなく、外界からの情報の感知、身体適応など重要で多彩な役割を果たしている。学生が将来美容界において指導的な役割を担うため、美と健康に関わる皮膚の科学的な正しい知識と技術を習得し、これを活用し実践する能力を身につける。							
受講条件	出席80%以上が前提となる。出席時間不足のための補習は行わない。本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	YIC京都オリジナル教材							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	皮膚科学に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で皮膚科学について主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	I 皮膚の概要(1)	①皮膚の役目 ②皮膚の表面 ③皮膚の断面						
第2回	I 皮膚の構造(2)	④紫外線が皮膚の与える影響						
第3回	I 皮膚の構造(1)	①表皮 ②表皮の役目						
第4回	I 皮膚の構造(2)	③真皮 ④真皮の役目						
第5回	I 皮膚の構造(3)	⑤皮下組織 ⑥皮下組織の役目						
第6回	II 皮膚附属器官の構造(1)	①汗腺 ②皮脂腺 ③毛 ④爪						
第7回	II 皮膚付属器官の構造(2)	①汗腺 ②皮脂腺 ③毛 ④爪						
第8回	III 皮膚の循環系と神経系	①皮膚の血管 ②皮膚のリンパ管 ③皮膚の神経						
第9回	IV 皮膚と附属器官の生理機能(1)	皮膚の生理機能7つ						
第10回	IV 皮膚と附属器官の生理機能(2)	皮膚の生理機能7つ						
第11回	V 皮膚科学まとめ(1)	グループワーク						
第12回	V 皮膚科学まとめ(2)	グループワーク						
第13回	V 皮膚科学まとめ(3)	グループワーク						
第14回	前期学習まとめ	質疑応答、演習試験その他						
第15回	期末試験	期末試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上。 期末試験70%、提出物10%、グループワーク発表10%、中間試験10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点~70点
授業態度			○				10	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	荒木 真衣		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/araki/				

科目名	化粧品化学		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	化粧品(化粧品)は、人の皮膚の保健・衛生および美容・美化を目的として用いられるものである。人間の美と健康に関わる職業人として、化粧品の科学的基礎知識を学ぶ。化粧品の安全性、原料や性状、使用目的を理解しお客様のニーズに合わせてご提案できるための知識を身に付ける							
授業の一般目標	(1)日本化粧品検定2級取得 (2)化粧品の中身や働きを理解し、目的に合った使い方が出来るようになる。 (3)化粧品の基礎知識を習得するとともに、ビューティの専門家として化粧品の選び方、メイク方法、美肌に導くプロフェッショナルを目指す。							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行わない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	日本化粧品検定2級・3級対策テキスト・問題集+YIC京都オリジナル教材							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 化粧品の目的に合った使い方を説明できる。 2. 化粧品の中身や働きを説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	化粧品に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で化粧品について主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	基本的な知識を修得し応用に発展する。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション	授業のルール・検定について・復習・知識チェック						
第2回	化粧品の原料と基礎知識	化粧品の原料・界面活性剤について						
第3回	化粧品基礎①	スキンケアアイテムの原料・成分について学ぶ						
第4回	化粧品基礎②	メイクアップ料・ヘアケア・ボディケアの基礎知識・原料・成分について				小テスト		
第5回	化粧品基礎③	ヘアケア・ボディケアの基礎知識・成分について						
第6回	皮膚・肌について知ろう	皮膚の構造・機能について復習						
第7回	肌悩みの原因について	化粧品と肌トラブル・肌悩みの原因とお手入れ方法について						
第8回	肌悩みに応じた化粧品の使い方①	乾燥・毛穴・ニキビ						
第9回	肌悩みに応じた化粧品の使い方②	シミ・くすみ・クマ・しわ・たるみ				小テスト		
第10回	美肌・美ボディ生活を送るには①	肌を劣化させるさまざまな要因						
第11回	美肌・美ボディ生活を送るには②	紫外線が肌に与える影響・UVケア化粧品						
第12回	化粧品にまつわるルール①	化粧品・薬用化粧品・医薬部外品について						
第13回	化粧品にまつわるルール②	広告やPR・化粧品を安全に使うために						
第14回	2級試験・期末試験対策	2級対策・復習問題						
第15回	期末テスト	期末テスト実施						
成績評価方法	単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 (1)授業内で小テストを行う (2)課題・レポートの提出をする (3)期末試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率80%に満たないものには単位を与えない。							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					70	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				20	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート				○			5	良(B):79点~70点
授業態度			○				5	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	メイクアップ基礎		単位数	4	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	JMA検定教科書に沿い、お客様にとって心地よいメイクの施し方を学習する。 メイクの技術の他に、道具の扱い方・身だしなみ・声かけ等も習得し、メイクアップの楽しさを学ぶ。							
授業の一般目標	JMA3級取得・セルフメイク検定取得 皮膚科学理論及びスキンケア理論、色彩理論、メイクアップベーシック知識の習得。 スキンケアからベースメイクのテクニックの習得。							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行わない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	メイクアップ技術検定試験JMA公式テキスト 3級・2級							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	メイクに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でメイクについて主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1 ポイントクレンジング～ベースメイクが30分で行える。2セルフメイクで基本バランスにメイクができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1週	オリエンテーション・化粧品の説明	授業のルールについて・化粧品検品・検定概要について						
第2週	セッティング・スキンケア基礎	セッティング・セルフメイク検定対策						
第3週	ベースメイク実習	セルフメイク検定対策 ベースメイク・ポイントメイク実習						
第4週	セルフメイク検定模擬試験	セルフメイク検定模擬試験						
第5週	セルフメイク検定	セルフメイク検定実施				5月20日		
第6週	マッサージ・タイム計測	コットンパック・乳液マッサージ ポイントクレンジング～ベースメイクタイム計測				仕上がりチェック		
第7週	タイム計測・チークのリエーション	ポイントクレンジング～ベースメイクタイム計測・チークのリエーションについて						
第8週	タイム計測・アイシャドウ基礎	ポイントクレンジング～ベースメイクタイム計測・アイシャドウ実習						
第9週	タイム計測・リップ基礎	ポイントクレンジング～ベースメイクタイム計測・リップ実習						
第10週	JMA3級試験	JMA3級試験実施・百貨店見学				6月24日		
第11週	フルメイク実習①	宝塚メイク実習						
第12週	フルメイク実習②	リクルートメイク実習						
第13週	フルメイク実習③	トレンドメイク実習						
第14週	期末試験対策	期末試験のポイント・復習						
第15週	期末試験	期末試験実施(実技・筆記)						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 日本メイクアップ技術検定3級取得を卒業要件とする (1)授業内で小テストを行う (2)課題・レポート提出をする (3)期末試験を実施する (4)期末試験を実施する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率80%に満たないものには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		70	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎		○		10	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度			○				10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	エステ基礎		単位数	3	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	必修		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	授業は実技を中心とする。 上達を確認するために、適宜チェックテストを行い、テクニックを確実なものとするようにする。							
授業の一般目標	人体の構造及び機能で学んだ知識を活かし、施術をし、モデルのボディバランスの変化を知ることで施術する喜びを感じる。 人に触れる施術を行うことで、接客する上での心遣い、気配り、相手を思いやる気持ちを育む。							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	学び理解したことを説明する事ができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	学び理解したことについて自分の意見を伝える事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	解剖生理学、マッサージに関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で解剖生理学について主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	基本的な知識を修得し応用に発展する。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1週	導入 肌に触れるという事	準備・時間厳守・身だしなみを整えることを学ぶ ホットタオルの作り方・ワゴンセット・ベッドセット ・ターバンの巻き方・タオルセットの方法を学ぶ						
第2週	オイル塗布、軽擦を学ぶ	オイル塗布・軽擦 (圧を抜く・密着する・姿勢に気をつける)						
第3週	ヒップアップの手法、指圧を学ぶ	バイブレーション・プレシオン(指圧)						
第4週	足裏のマッサージを学ぶ 強擦法 切打法を学ぶ	かかとの強擦・足の裏の切打・足の裏の圧迫						
第5週	足裏のマッサージを学ぶ 足裏の血行促進方法を学ぶ	足の裏8の字・足の裏のプレシオン・足の裏の指圧						
第6週	ふくらはぎのマッサージを学ぶ タッピング法を習得する	腓腹筋のマッサージ ①腓腹筋のマッサージ ②タッピング						
第7週	ふくらはぎのマッサージを学ぶ 足首ストレッチ法を習得する	内分泌のツボ・足首のストレッチ・足のストレッチ						
第8週	マッサージ後の効果検証	オイル塗布から足のストレッチまで通し(左右の脚で実践) 疑問点・苦手部分を確認する						
第9週	脱毛学 水溶性WAXによる脱毛処理を学ぶ	毛の構造、ヘアサイクルを理解する 水溶性WAXの使用法、注意点を学ぶ						
第10週	セルライトにアプローチする マッサージを学ぶ ペトリサージュを習得する	ペトリサージュ (体の移動・密着を習得する)						
第11週	ふくらはぎの血行を促進する マッサージを学ぶ 1 切打法を習得する	切打 (体の動き・手の動きを習得する)						
第12週	ふくらはぎの血行を促進する マッサージを学ぶ 2 拍打法を習得する	拍打 (手の動きを習得する)						
第13週	マッサージ後の沈静方法を学ぶ 擦り上げを習得する	擦り上げ (手の動き・手の圧・密着を習得する)						
第14週	フットマッサージ全工程 復習 1	下肢背面 通し確認(左右の脚で実施) 疑問点・苦手部分の克服 下肢背面 通し計測 ペアで確認しあいアドバイスをして手技を習得する						
第15週	フットマッサージ全工程 復習 2	期末テスト詳細連絡 下肢背面 通し計測						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点~70点
授業態度			○				10	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	荒木 真衣			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/araki/			

科目名	ビジネスと仕事の実践			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	必須			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	授業は座学・発表を中心とする。 社会人基礎力・セルフマネジメント力の向上を図るとともに、経営、マネジメントの視点を持つことで即戦力となる人材を目指す							
授業の一般目標	社会人としての基礎知識を学ぶとともに、セルフマネジメント力の向上を図る。経営、マネジメントの視点を持つことで社会人になる自覚を持つとともにビジネス感覚を養う							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	YIC京都オリジナル教材							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	ビジネスに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でビジネスについて主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	個人サロンを創造し、プロモーションができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容					備考	
第1回	オリエンテーション	授業について・働く意義・仕事と職業の違いについて						
第2回	お金と仕事①	給与の役割・福利厚生とは						
第3回	お金と仕事②	税金・社会保険について基礎知識					小テスト	
第4回	社会人としての常識とマナー	社会人1年目までに備えるべき常識とマナー						
第5回	電話対応	電話を受ける・電話をかける						
第6回	クレーム対応基礎知識	クレーム対応について					小テスト	
第7回	ストレスについて	ストレスとストレスコーピング						
第8回	アンガーマネジメント	『怒り』の感情と上手に付き合う・アサーションスキル						
第9回	プレゼンテーションとは	プレゼンテーション基礎・説得力のある伝え方						
第10回	経営とは	ビジネス・経営について・PDCAサイクル						
第11回	マーケティング	マーケティングの基本的な考え方						
第12回	サロン起業1	繁盛店(個人サロン)を考えてみよう・事業計画書						
第13回	サロン起業2	繁盛店(個人サロン)を考えてみよう・DM作成						
第14回	プレゼンテーション実践	個人サロンをプレゼンテーション						
第15回	期末試験	期末試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点以上、出席率80%以上 (1)期末試験を実施する (2)課題・レポートを作成し提出する (3)授業内で小テストを行う (4)授業内で発表を行う 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率が80%以下のものには単位を与えない								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○	◎				60	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				10	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート							5	良(B):79点~70点
授業態度							10	可(D):69点~60点
発表・作品					◎		15	不可(E):59点以下
演習								
出席			○					欠格条件
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	メイクアップ I		単位数	4	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	<p>座学・実技中心の授業(講師デモンストレーション・学生実習) メイクアップの基礎知識・ベーシック～応用技術・アイテムの知識・人間性・マナー・感性を土台に、能力の向上を目指す。JMA検定を学びながら、基本に忠実な本物の技術、顧客や社会のために誠実な思いを持って提供し喜びをもたらす職業としてメイクアップに携わることの尊さや誇り、美しさを志向します。</p>							
授業の一般目標	<p>(1)日本メイクアップ技術検定2級取得。 (2)モデルの顔分析をし、基本のバランスにフルメイクができるようになる (3)メイクアイテムを正しく理解し、用途に応じて使い分けができる</p>							
受講条件	<p>出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。</p>							
事前学習について (テキスト・参考書等)	日本メイクアップ技術検定試験3級・2級公式テキスト・YICオリジナル教材							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	メイクに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でメイクについて主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	1. モデルの骨格に合わせた基本バランスにフルメイクができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1回～ 第4回	オリエンテーション・復習・手技確認	授業に関するルール・JMA検定について 知識復習・手技確認						
第5回～ 第8回	顔分析・ベースメイク	顔分析・ベースメイク理論・実技						
第9回～ 第12回	スキンケア概念 ポイントメイク①	スキンケア概念・アイブロウ基礎						
第13回～ 第16回	メイクアップ基礎理論 ポイントメイク②	アイブロウ応用 アイメイク基礎						
第17回～ 第20回	ベースメイク理論 ポイントメイク③	アイブロウ・アイメイク応用、アイラインマスカラ基礎						
第21回～ 第24回	ポイントメイク理論 ポイントメイク応用	目元応用 リップ チーク応用						
第25回～ 第28回	修正メイクアップ・2級通し	2級通しタイム計測・苦手箇所練習						
第29回～ 第32回	知識検定模擬テスト・2級通し	2級通しタイム計測・苦手箇所練習				小テスト		
第33回～ 第36回	日本メイクアップ知識検定・2級通し	ベーシック試験・2級通し						
第37回～ 第40回	検定模擬試験	JMA 2級の検定諸注意・実技模擬試験				小テスト		
第41回～ 第44回	JMA 2級検定試験	JMA 2級検定試験						
第45回～ 第48回	イメージメイク理論	コラーージュ作成・イメージメイク4パターン						
第49回～ 第52回	イメージメイク 顔分析	顔分析・イメージメイク応用						
第53回～第56回	期末試験対策	実技・筆記模擬試験						
第57回～ 第60回	期末試験	実技・筆記試験						
成績評価方法								
<p>単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 (1)期末試験を実施する (2)授業内で小テストを数回実施する (3)授業内で課題を提出する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率が80%に満たないもには単位を与えない。</p>								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		70	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎		◎		20	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート							評価なし	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			5	可(D):69点～60点
発表・作品					○		5	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	メイクセラピーⅠ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義実習			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	選択必須			開設時期	後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	座学、実技の授業 テキストの他、学習プリントで検定試験の出題ポイントを習得する メイクセラピーの知識と技術を習得する							
授業の一般目標	メイクセラピー3級合格 メイクによる心理的効果を学び、メイクがQOLの向上に役立つことを理解する メイクテクニックを習得し、オーダーに伴った印象にセルフメイク(印象管理)が出来るようになる。							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない。本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	メイクセラピー検定3級対策テキスト							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	メイクセラピーに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でメイクセラピーについて主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	メイクセラピーとは	オリエンテーション メイクセラピーの目的・役割を理解する						
第2回	顔と心と化粧の関係	気分・感情・思い込みについて理解する						
第3回	カウンセリング概論	カウンセリングの意義や基本テクニックについて						
第4回	メイクアップ概論①	メイクセラピーのメイクアップにおける3大要素					小テスト	
第5回	メイクアップ概論②・スキンケア概論	色彩・コスメティックの質感・肌タイプについて						
第6回	癒し系メイク	癒し系の印象にセルフメイクをする						
第7回	キャリア系メイク	就職活動の身だしなみについて・キャリア系の印象にセルフメイクをする						
第8回	3級対策	3級対策授業						
第9回	小テスト・3級復習	小テスト・3級復習プリント					小テスト	
第10回	メイクセラピー3級試験	メイクセラピー3級試験実施						
第11回	カウンセリング実習	傾聴スキル・オーダーカウンセリング						
第12回	印象分析	色味・形による印象分析						
第13回	半顔メイク・メインカウンセリング	オーダーカウンセリングに伴った印象に半顔メイク(相モデル)・メインカウンセリング						
第14回	半顔セルフメイク・フォローカウンセリング	オーダーに伴った印象にセルフメイク・フォローカウンセリング						
第15回	期末試験	筆記試験(60分)						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 ※メイクセラピー検定3級取得を卒業要件とする 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点~70点
授業態度			○				10	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	メイクセラピーⅡ			単位数	1	科目コード		
授業形態	講義実習			対象学生	2年生	開設期	半期	
区分	選択必須			開設時期	前期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	座学・グループワークを取り入れた授業 化粧療法の領域における援助法の一つとして、心理的な援助活動に必要な「心理学」「コミュニケーション」メイクアップに必要な「メイク理論」「色彩学」を学びメイクセラピーの概念を総合的に習得する 適宜視覚教材を利用							
授業の一般目標	メイクセラピー検定2級取得 メイクセラピーにおける心理学・メイク理論を習得し説明ができる 心理カウンセリングの手法を身に付け、傾聴しながら半顔にメイクが出来る。							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない 本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	メイクセラピー検定2級・1級対策テキスト							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	メイクセラピーに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でメイクセラピーについて主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	傾聴をしながらオーダーに伴った印象にメイクで表現ができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション	メイクセラピー検定について メイクセラピーとは						
第2回	メイクセラピー的心理学①	精神分析と無意識・論理療法						
第3回	メイクセラピー的心理学②	交流分析・防衛機制						
第4回	化粧心理学①	化粧の歴史・役割						
第5回	化粧心理学②	印象管理・承認欲求						
第6回	カウンセリング概論	カウンセリング・傾聴スキル						
第7回	印象分析・メイクアップに必要な3要素	パーツバランス・色彩・コスメティックの質感						
第8回	2級筆記対策	事例に学ぶ・論述問題対策					小テスト	
第9回	2級筆記対策	練習問題・出題傾向と注意点						
第10回	メイクセラピー検定2級試験	メイクセラピー検定2級筆記試験						
第11回	メイクセラピー検定2級実技試験	メイクセラピー検定2級実技試験						
第12回	1級概要説明・筆記対策	メイクセラピー検定1級概要説明						
第13回	1級試験出題例	オーダーに伴ったメイクアップ						
第14回	期末試験対策	1～13回までの復習						
第15回	期末試験(筆記)	期末試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 (1)期末試験を実施する (2)授業内で小テストを実施する (3)授業内で課題を提出する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率が80%に満たないものは単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		70	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		○			○		10	良(B):79点～70点
授業態度			○	○			5	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	メイクセラピーⅢ		単位数	1	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実習を中心とした授業 メイクセラピーテキストの他、サブテキストを参考に実技演習をしながら理解を深める。 検定試験の出題ポイントの習得の他、授業の振り返りも丁寧に自分で考えて伝える力も育てる。 適宜視覚教材を使い、接客時に必要な信頼関係の築き方の実例を学ぶ。							
授業の一般目標	(1)メイクセラピー検定2級取得。クライアントとどのようにしたら信頼関係を構築できるのか、心理学を応用したカウンセリング技術を習得。 (2)傾聴をしながら、クライアントのオーダーに伴った印象にメイクアップができるようになる (3)授業で学んだ対人認知・印象管理などの技術を自分自身の就職活動・社会生活にも活かせるように身につける。							
受講条件	出席80%以上が前提となる 出席時間不足のための補習は行なわない。本授業は積み上げの知識・技術が必要なため、必ず復習を行ってから授業に臨む事。 授業開始時には事前準備を済ませておく事。							
事前学習について (テキスト・参考書等)	メイクセラピー検定2級・1級テキスト・YIC京都オリジナル教材							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べる事ができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	メイクセラピーに関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中でメイクセラピーについて主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	会話(傾聴中心)をしながらオーダーに伴った印象に半顔メイクができる。							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容					備 考	
第1回	メイクセラピーの心理学	来談者中心療法・行動療法的アプローチ						
第2回	化粧品心理学	化粧の効用・評価と心理						
第3回	カウンセリング概論	積極的傾聴・共感的理解・受容的態度						
第4回	印象分析・ポイントメイク	ポイントメイク実習						
第5回	遠心メイク・求心メイク	印象チェンジメイク						
第6回	2級対策メイク実習	知的でしっかりした仕事出来る印象						
第7回	2級対策メイク実習	上品で優しく女性らしい印象						
第8回	2級対策メイク実習	明るく元気で健康的な印象						
第9回	2級対策メイク実習	3パターンのオーダーから苦手なオーダーの練習						
第10回	模擬試験	オーダーに伴った印象に半顔メイク					小テスト	
第11回	メイクセラピー検定2級実技試験	メイクセラピー検定2級実技試験						
第12回	1級概要説明・実技対策	1級の概要説明・ベースメイク～半顔メイク						
第13回	傾聴トレーニング	オーダーに伴った印象にメイク・傾聴トレーニング						
第14回	期末試験対策	苦手なオーダーの練習						
第15回	期末試験	実技試験						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 (1)期末試験を実施する (2)授業内で小テストを実施する (3)授業内で課題を提出する 以上を下記の観点・割合で評価する。なお出席率が80%に満たないもには単位を与えない。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		70	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				15	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート							10	良(B):79点～70点
授業態度			○				5	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	福本 真弓			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/fukumoto/			

科目名	解剖生理学 I		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	1年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	後期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	座学・グループワーク・発表形式を取り入れた授業 チェックテストを実施し、学習した知識・技術の習得状況を自己管理する 学習の仕方を学び活用する 適宜視覚教材を利用							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> 解剖生理学の応用を学び習得する 学んだ知識を基に、お客様が納得する説明ができる INFA国際ライセンス国内卒業筆記試験合格 							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	学び理解したことを説明する事ができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	学び理解したことについて自分の意見を伝える事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	解剖生理学に関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で解剖生理学について主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	基本的な知識を修得し応用に発展する。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1週	導入 解剖生理学復習	前期に学んだ解剖生理学の復習テスト INFA筆記試験を合格するための学習のポイント、学習の進め方の確認						
第2週	細胞 1	細胞の構造について学ぶ(各名称を覚える・細胞の役割・分裂について学ぶ)						
第3週	骨格系統 1	骨の働きを理解する 骨の名称を覚える 骨を形状別に区別する						
第4週	骨格系統 2	骨と関節の構造と役割について学ぶ						
第5週	筋肉 1	筋肉の働きを理解する 筋肉の名称を覚える 筋肉の種類を理解する						
第6週	筋肉 2	筋の収縮と疲労について学ぶ 運動と栄養と筋肉の関係について学ぶ						
第7週	皮膚 1	皮膚の役目を理解する 表皮、真皮について学ぶ						
第8週	皮膚 2	皮下組織について学ぶ 皮膚の付属器について学ぶ(汗腺・皮脂腺・毛・爪)						
第9週	皮膚 3	様々な皮膚トラブルについて学ぶ アトピー性皮膚炎、アレルギー、紫外線により肌への影響、にきびの発生の仕方						
第10週	消化器 1	消化器の構造を学ぶ 概論、口腔と付属器官、咽頭と食道						
第11週	消化器 2	消化器官について学ぶ(胃・小腸・大腸) 胃潰瘍、便秘について						
第12週	消化器 3	消化器官について学ぶ(肝臓・すい臓)						
第13週	栄養学	主要栄養素を学ぶ 三大栄養素、ミネラル、ビタミンの働きと欠乏症状 栄養素の吸収を学ぶ						
第14週	呼吸器	呼吸器系について学ぶ 気道、肺、横隔膜、胸式呼吸と腹式呼吸 喫煙のデメリットについて						
第15週	循環器 1	循環器について学ぶ(血液の循環経路・心臓の働き) 心臓疾患について						
第16週	循環器 2	血液成分とその役割 ・各血管の特徴						
第17週	循環器 3	リンパについて学ぶ(リンパとは何か・リンパの循環経路)						
第18週	排泄器	排泄器について学ぶ(腎臓の働き) 腎臓疾患について						
第19週	神経系 1	神経系を学ぶ(概論・神経系の分類)						
第20週	神経系 2	大脳皮質と脳幹・脊髄とその機能・神経の伝導路(うつ病、パーキンソン病の発症の仕組み)						
第21週	神経系 3	自律神経 交感神経、副交感神経の働き(自律神経失調症発症の原因)						
第22週	内分泌 1	ホルモンについて学ぶ(ホルモンの作用・ホルモン分泌をコントロールしているもの)						
第23週	内分泌系 2	主な内分泌腺とホルモンの働き(刺激ホルモン、甲状腺ホルモン、上皮小体ホルモン、副腎ホルモン)						
第24週	内分泌系 3	性腺と性ホルモン(更年期障害について その対処法)						
第25週	総合確認テスト	各章の確認テスト実施						
第26週	総合確認テスト 振り返り	総合テストの振り返り学習 各章の復習						
第27週	口頭試問対策	お客様の悩みを解消するアドバイスを考える (お客様が納得して実施しようと思えるアドバイスを考える)						
第28週	口頭試問対策	お客様へのアドバイス発表 みんなの前で発表をし納得して理解できるかを確認する						
第29週	口頭試問対策	アドバイス発表で得た改善点を活用しアドバイスの改善をする						
第30週	口頭試問対策	期末試験実施						
成績評価方法	単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。							
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点～90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点～80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点～70点
授業態度			○				10	可(D):69点～60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○					欠格条件
担当教員	荒木 真衣			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/araki/			

科目名	解剖生理学Ⅱ		単位数	2	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	座学・グループワーク・発表形式を取り入れた授業 チェックテストを実施し、学習した知識・技術の習得状況を自己管理する 学習の仕方を学び活用する 適宜視覚教材を利用							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> 解剖生理学の応用を学び習得する 学んだ知識を基に、お客様が納得する説明ができる INFA国際ライセンス国内卒業筆記試験合格 							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	INFAセオリー							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	学び理解したことを説明する事ができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	学び理解したことについて自分の意見を伝える事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	解剖生理学に関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で解剖生理学について主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	基本的な知識を修得し応用に発展する。							
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容	備 考					
第1週	カルテ指導	カルテ指導 口頭質問対策						
第2週	口頭質問対策	過去の口頭質問問題の解説 骨、筋肉、皮膚 過去の口頭質問問題の解説 消化器、栄養学、呼吸器、排泄器						
第3週	INFA国際ライセンス受験	INFA国際ライセンス受験 INFA国際ライセンス受験						
第4週	INFA国際ライセンス 受験後の振り返り	受験後の振り返り、ディスカッション、 フェイシャル・メイク試験への取り組み方の決定	感想文作成					
	皮膚学 復習	皮膚学復習テスト	小テスト					
第5週	皮膚学 応用	表皮の構造を深く理解する ターンオーバー、保湿因子、バリア機能 真皮の構造を深く理解する 基底膜、各細胞と線維の働き						
第6週	皮膚生理学 皮膚の生理機能とは 美しい素肌とは	皮膚の生理機能 生理機能7つを理解する 美しい素肌の条件 美しい素肌の条件6つを理解する						
第7週	皮膚生理学 皮膚の生理機能とは 皮膚生理学 美しい素肌とは	皮膚の生理機能 生理機能7つを理解する 美しい素肌の条件 美しい素肌の条件6つを理解する						
第8週	皮膚生理学 様々な状態での皮膚の変化 皮膚生理学 皮膚の内面美容 概論	皮膚の汚れの種類 季節別による皮膚 気温と皮膚 皮膚と自律神経、ホルモン、大脳関係の関係						
第9週	皮膚生理学 皮膚と内臓 美しい肌になるための食生活について	皮膚と内臓の関係を理解する 内臓疾患が肌にも与える影響 肌が美しくなる栄養素を理解する ビタミンの働き ミネラルの働き カルシウムの働き 脂肪酸の働き	小テスト					
第10週	皮膚と紫外線	皮膚と紫外線の関係を理解する 紫外線の分類と皮膚への作用 紫外線防御とSPF メラニンの生成過程と美白剤を理解する メラニン合成経路、過剰する美白剤						
第11週	皮膚と色素異常 皮膚と湿疹	皮膚と色素異常について理解する 肝斑、そばかす等 皮膚と湿疹について理解する 湿疹の分類方法と発症過程						
第12週	アレルギーについて アトピー性皮膚炎について	アレルギーについて理解する 一次刺激性とアレルギー性皮膚炎の違い アレルギーを起こす原因物質 アトピー性皮膚炎について理解する 定義と症状、かゆみの発症過程と治療法、 スキンケアのポイント						
第13週	にきびについて ①	にきびについて理解する にきびの症状と発症メカニズム 皮脂過剰原因、毛穴閉塞原因、炎症原因 にきびのスキンケアのポイントを理解する	小テスト					
第14週	ブラックヘッドについて エステティック機器学について ① エステティック機器学について ②	ブラックヘッドについて理解する エステティック機器学について理解する 機器の使用手法、原理、仕組み 電氣的2重層について理解する						
第15週	皮膚とストレスの関係 皮膚と女性ホルモンの関係	皮膚とストレスの関係を理解する ストレスとホメオスタシス ランゲルハンス細胞、NK細胞、副腎皮質ホルモン、自律神経 皮膚と女性ホルモンの関係を理解する 月経周期による肌の変化 更年期と肌の関係	小テスト					
	皮膚と睡眠の関係	皮膚と睡眠の関係を理解する 成長ホルモン、レム睡眠、ノンレム睡眠 睡眠とホルモンの関係を理解する	小テスト					
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点~70点
授業態度			○				10	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	荒木 真衣		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/araki/				

科目名	エステ(ボディ)			単位数	8	科目コード		
授業形態	講義実習			対象学生	1年生	開設期	半期	
区分	選択必須			開設時期	後期	教員実務経験対象	有	
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実技中心の授業。 学習プリントで技術の習得状況、未習得状況を自己管理する。 適宜チェックテストを実施し、テクニックを確実にする							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マッサージの効果・テクニックを習得する ・社会に出て「サロンで働く」上で、必要なルール・マナー・守秘義務・清掃を習得する ・社会に出て「サロンで働く」上で必要な時間管理能力を身につける ・INFA国際ライセンス ボディパスポート国内卒業試験合格 							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)								
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	学び理解したことを説明する事ができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	学び理解したことについて自分の意見を伝える事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	解剖生理学に関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で解剖生理学について主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)	基本的な知識を修得し応用に発展する。							
授業計画(授業単位)								
回	主題	授業内容					備考	
第1週	導入 確認テスト	実習室使用方法、清掃方法の確認。 コース内のルールを決定。 下肢背面確認テストの実施。						
第2週	ヒップマッサージの習得 ヒップアップの手法を習得 立体的なヒップメイキングの手法を習得	ヒップ軽擦、ヒップバイブレーション 3点プッシュ、ヒップタッピング、切打、拍打						
第3週	背中のマッサージの習得 背中の痛みを和らげる手技 背中の血行促進の手技	背中軽擦、8点プッシュ、のこぎり、6点圧						
第4週	背面のマッサージのクオリティを上げる①(下肢背面、ヒップ、背中)	下肢背面、ヒップ、背中のマッサージの復習 連続性、リズム、効果を意識しマッサージを行う						
第5週	背面のマッサージのクオリティを上げる②(下肢背面、ヒップ、背中)	苦手箇所、修正箇所の確認。 背面マッサージを完璧に施術できるようになる						
第6週	美脚マッサージを習得する むくみの解消 立体的なふくらはぎをつくる セルライトを解消する	下肢前面軽擦、足の指先マッサージ ベトリサーージュ、切打、拍打 さすりあげ、9点プッシュ						
第7週	理想的なウエスト作りを手技を習得 細いウエストを作る 便秘解消マッサージ	腹部軽擦、ふなごぎ、ベトリサーージュ 三角形のマッサージ、大腸マッサージ						
第8週	前面のマッサージのクオリティを上げる①(下肢前面、腹部)	下肢前面、腹部のマッサージの復習 連続性、リズム、効果を意識しマッサージを行う						
第9週	前面のマッサージのクオリティを上げる②(下肢前面、腹部)	苦手箇所、修正箇所の確認。 前面マッサージを完璧に施術できるようになる						
第10週	・気になる二の腕を細くするマッサージの習得 細い指先をつくる 細い二の腕をつくる ・フットケア、 ・wax	上腕の軽擦、8点プッシュ、手のひら、ストレッチ、 脇のリンパを流す フットケア、ネイルケア、 水溶性wax						
第11週	肩から首のマッサージを習得する 肩こりの解消 顔のむくみの解消 ・ベディキュア	頸部マッサージ ベディキュア						
第12週	理想的なバスト形成のマッサージを習得する バストアップ、胸の谷間の皺とりの手技 バストボリュームアップ、形状記憶の手技	バスト軽擦、3点のつぼ、リサーージュ、エフルーージュ エバンターユ、輪上軽擦、バイブレーション						
第13週	美しいバストをメイキングする	バストマッサージの復習 バストバック、ODT						
第14週	INFA試験項目の復習 ①	カウンセリング、カルテ作成を行い、お客様に的確なアドバイスをした上で、施術時間を管理し、効果、目的を意識しながら試験項目の施術ができるようになる						
第15週	INFA試験項目の復習 ②	カウンセリング、カルテ作成を行い、お客様に的確なアドバイスをした上で、施術時間を管理し、効果、目的を意識しながら試験項目の施術ができるようになる						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点~70点
授業態度			○				10	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	荒木 真衣			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/araki/			

科目名	エステ(フェイシャル)		単位数	8	科目コード			
授業形態	講義実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	実技中心の授業。 学習プリントで技術の習得状況、未習得状況を自己管理する。 適宜チェックテストを実施し、テクニックを確実にする							
授業の一般目標	<ul style="list-style-type: none"> ・マッサージの効果・テクニックを習得する ・社会に出て「サロンで働く」上で、必要なルール・マナー・守秘義務・清掃を習得する ・社会に出て「サロンで働く」上で必要な時間管理能力を身につける ・INFA国際ライセンス フェイシャルパスポート国内卒業試験合格 							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	INFAテクニック							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	学び理解したことを説明する事ができる							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	学び理解したことについて自分の意見を伝える事ができる							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	解剖生理学に関する関心を広げ、業界の問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で解剖生理学について主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点								
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1週	INFA国際ライセンス(ボディ) フルボディチェック	試験項目フルチェック						
第2週	INFA国際ライセンス(ボディ) フルボディチェック	試験項目フルチェック						
第3週	INFA国際ライセンス(ボディ) フルボディチェック	試験項目フルチェック						
第4週	INFA国際ライセンス(ボディ) フルボディチェック	模擬試験実施 修正点、改善点の理解						
第5週	INFA国際ライセンスボディ試験	INFA国際ライセンスボディ試験 実施						
第6週	フェイシャルケアの流れを理解する	フェイシャルケアの流れ、目的、肌状態のチェック フェイシャルケアの事前準備を理解する						
第7週	クレンジング ポイントクレンジング ネイルケア・カラー	デコルテマッサージの手順を理解する						
第8週	クレンジング ベースクレンジング ネイルケア・カラー	デコルテマッサージの手順を理解する フェイシャルマッサージの手順を理解する						
第9週	デコルテマッサージ イメージメイク	フェイシャルマッサージの手順を理解する						
第10週	デコルテマッサージ イメージメイク	ベースクレンジング、ポイントクレンジング ふき取り デコルテマッサージ、フェイシャルマッサージ確認チェック						
第11週	フェイシャルマッサージ イメージメイク ヘアアレンジ	クレンジング、デコルテ、フェイシャルマッサージ 苦手克服						
第12週	エステティック機器 イメージメイク ヘアアレンジ	ベースクレンジング、ポイントクレンジング ふき取り デコルテマッサージ、フェイシャルマッサージ確認チェック						
第13週	エステティック機器 イメージメイク ヘアアレンジ	エステティック機器について理解する スチーマーの使用方法、イオン導入、ブラシクレンジング パック						
第14週	試験項目 実技チェック ①	エステティック機器について理解する スチーマーの使用方法、イオン導入、ブラシクレンジング パック						
第15週	試験項目 実技チェック ②	試験項目の一連の流れを理解する						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上 成績点70%、提出物&授業態度点20%、出席点10%を換算して総合評価を行う。								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○					50	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				30	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			10	良(B):79点~70点
授業態度			○				10	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	荒木 真衣		実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/araki/				

科目名	メイクアップ応用		単位数	2	科目コード			
授業形態	実習		対象学生	2年生	開設期	半期		
区分	選択必須		開設時期	前期	教員実務経験対象	有		
授業概要 (目的、目標とする資格・検定等)	・実技中心の授業 必要に応じて講義形式を取り入れる ・必要に応じて視覚教材を使用							
授業の一般目標	メイクで学んだ知識・技術を活かし、様々なメイクアップ技術でメイクの表現方法を知る							
受講条件	出席率80%以上が前提となる							
事前学習について (テキスト・参考書等)	YICオリジナル教材							
授業の到達目標								
<input type="checkbox"/> 知識・理解の観点	1. 学んだ事を説明できる。 2. 学んだ領域の概要と課題を説明できる。							
<input type="checkbox"/> 思考・判断の観点	授業で取り上げた各領域について自分の意見を論理的に述べることができる。							
<input type="checkbox"/> 関心・意欲の観点	接遇に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる。							
<input type="checkbox"/> 態度の観点	日常生活の中で接遇について主体的に考えることができる。							
<input type="checkbox"/> 技能・表現の観点	30分でモデルにエレガントメイクを施すことができる							
授業計画(全体)								
基本的な知識を修得し応用に発展する。								
授業計画(授業単位)								
回	主 題	授 業 内 容				備 考		
第1週	メイクアップ理論	INFAメイク、エレガントメイクについて理解する 外国人と日本人の骨格の違いを学ぶ						
第2週	メイクアップ理論	印象分析 光と影を学ぶ						
第3週	フルメイク	フルメイク実践						
第4週	ベースメイク	ベースメイク基礎チェック						
第5週	ベースメイク	アイメイク基礎チェック						
第6週	ベースメイク	ベースメイク基礎チェック						
第7週	アイブロウ	アイブロウ基礎チェック						
第8週	アイブロウ	アイブロウ基礎チェック						
第9週	アイメイク	アイメイク基礎チェック						
第10週	アイメイク	アイメイク基礎チェック						
第11週	リップ	リップメイク基礎チェック						
第12週	フルメイク	エレガントメイク						
第13週	フルメイク	エレガントメイク						
第14週	フルメイク	エレガントメイク						
第15週	総まとめ	期末試験の実施						
成績評価方法								
単位認定 総合成績60点、出席率80%以上								
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合	成績評価基準
定期試験	◎	○			◎		70	秀(S):100点~90点
小テスト	◎	○	◎				10	優(A):89点~80点
宿題授業外レポート		◎	○	◎			評価なし	良(B):79点~70点
授業態度			○				20	可(D):69点~60点
発表・作品							評価なし	不可(E):59点以下
演習							評価なし	
出席			○				欠格条件	
担当教員	荒木 真衣			実務経験紹介	https://www.yic-kyoto-beauty.ac.jp/voice/araki/			